

「ほっかいどう学」地方創生塾（芦別市）「探究活動グループ」 1年目 第1回

日時	令和2年9月29日（火）	15時40分～17時
会場	北海道立芦別高等学校	
参加者	高校生6名	
塾長	あしべつ未来の森協同組合常務理事 Ka2 Design フリーデザイナー	新村 充 氏 大倉 加奈 氏

内容

芦別市の地方創生塾は、芦別高等学校の1年生6名が参加した。芦別市と赤平市それぞれで活躍されている元地域おこし協力隊員の新村・大倉両氏を塾長とし、芦別のまちづくりについて考え行動する取組がスタートした。まず、塾生から創生塾に参加した理由を聞いた。

【参加した理由】

- ・上砂川町から通学しているので芦別のよいところを知りたい。
- ・自分が住んでいるところのよさを他の人にも知ってほしい。
- ・長く芦別に住んでいるが、知らないことが多いのもっと知りたい。

次に、今回創生塾を企画した芦別市教育委員会担当者から「塾生には、芦別はもとより近隣地域に住んでいても意外と知らないよいところを再発見したり、大人には見えない高校生の視線でしか見えない改善すべきところを提案したりして、地元を好きになってもらいたい。また、将来地元を離れても、もう一度地元に戻る、離れていても地元を気にかけて地元愛を持った大人になって欲しい」という思いを参加者に伝えた。その後、参加者から「地元の良いところといえば・・・」や「今、自分たちに何が必要か」、「自分たちが地域でできることは？」ということについて交流を行った。塾生から「自分で食べてみた芦別名物」や「現在紹介されていないことを掘り下げた情報発信する」、「ガタタンではなく、無名なものを紹介したい」など多くの希望がある中から「高校生カフェ」はできないのかとの意見に話が集中した。最後は、次回10月13日に向け、塾生が「芦別に求めるもの」「『高校生カフェ』に求めるもの」を考えてくるよう塾長から宿題が出され終了した。



アンケートの結果（事前・事後）

参加者の事前に行った感想には、「うまくいくかどうか不安」「力になれるか不安です。貢献できるか不安」と言った声があがっていたが、自ら立候補して事業に参加したこともあって、事前事後とも「やる気の度合い」が非常に高かった。

今回は、塾長と塾生との意見交流を通して、高校生の思いを受け止めること、活動の方向性を共有することを大切にすることで、プロジェクトを進める上で必要なことへの理解が高まったと考えられる。

第1回創生塾前後の意識変容調査結果

